

## 子どもの役目

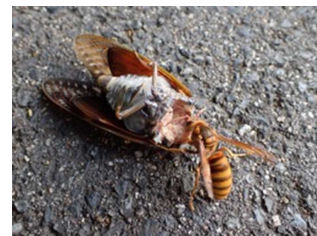
### 1. スズメバチの食事

ミツバチがスズメバチに襲われる時期になりました。オオスズメバチやキロスズメバチは、春に女王蜂1匹から始まったの巣が大きくなり、たくさんの成虫や幼虫がいます。これまで餌とした毛虫などがいなくなると、他のハチを標的にするのです。ヒメスズメバチはアシナガバチの幼虫を襲います。



肉を取られ、内臓と頭部になったガの幼虫

スズメバチは蜜にくることもありますが、肉が主食です。しかし、成虫は肉を食べることはなく、噛みちぎって肉団子にしたものを巣に持ち帰り、幼虫に与えます。幼虫はこの肉を消化し、アミノ酸にします。ハチの子を食べると甘く美味しいのは、このアミノ酸のせいです。成虫はハチ類の分類で細腰亜目とよばれるように胸と腹の間が細く、腹端を自由に回転させた毒針攻撃には便利なのですが、消化管が細いため液体しか通りません。そこで成虫は、幼虫が肉を消化して吐き戻した液体をもらうことで成り立っているのです。「幼虫は成虫の消化器官」といってもよい仕組みです。(No.82 いやな奴か 参照)

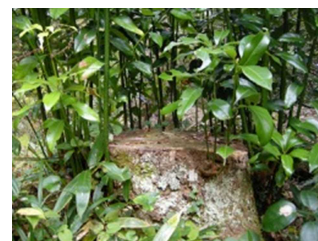


セミの肉を噛みとる  
キロスズメバチ

### 2. ひこばえ

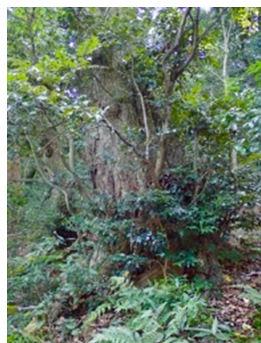
大きな樹木の根元や切り株から芽が出てきたものを「ひこばえ」といいます。薪や炭の利用が多かった時期、伐採後の出てくるひこばえを成長させ、適した太さになるとまた伐採する利用の仕方がなされていきました。「萌芽更新」とよばれます。したがって、里山にはひこばえを出しやすい木が残っていることになります。

打吹山は伐採が禁じられた山「お留め山」で利用されていませんでしたから、ひこばえの出にくい木や出やすい木がいろいろ混じっているはずですが、観察してみてください。最も目立つのはスダジイ、ツブラジイです。大江神社から長谷の展望台下までの遊歩道沿いをみると、シイは36本中30本に、タブノキは12本中3本にひこばえがありました。



タブノキの切り株からの萌芽

ひこばえが発生する理由は、弱った主幹の代替をするためと考えられています。ヒサカキ(シブ)などは、切られるとすぐひこばえを発生させてたくさんの葉をつけます。その代わり地下部は地上部よりもはるかに太い根となっていて栄養を蓄えています。カイコの餌とするクワの栽培も、この強い萌芽力を利用したサイクルとなっています。



シイのひこばえ

ひこばえが全て大きく成長するわけではありません。光の奪い合いを制した一部のひこばえは、失った主幹の代わりをします。あらかじめひこばえを準備するシイは、光が弱くて光合成が十分できないひこばえを養うためのコストがかかるはずですが、明るい場所でひこばえが多いのは、親の負担を軽減しているのでしょうか。また、主幹が倒れた時、すぐ代替のひこばえが他の植物を抑えて大きくなれる利点があるはずですが、打吹山にそのような樹木は確認できませんでした。